

## 視点1：全教職員で取組を推進するための組織運営

《取組内容》 資質・能力をベースにした  
全職員で取り組むCAPDサイクル構築

### 検証改善プロジェクトチーム

保健主事

校長

副校長

生徒指導主事

教務主任

研究主任

保健・  
安全部

生徒指導部

教務部

研究部

身に付けたい資質・  
能力の明確化

学年や教科を超えた組織  
的な授業改善を推進する  
ためのポイント

調査結果の積極的  
活用のポイント



《提言》  
育成を目指す資質・能力を全職員で  
確認することで、「チーム学校」の意  
識ができる。  
みんなで子どもたちと関わろう！

## 視点2：学年や教科を越えた組織的な授業改善の推進

《取組内容》身に付けたい資質・能力をベースにした  
校内研究会

【身に付けたい資質・能力】

### 自分の考えをもち表現する

指導案に位置付け  
「児童の姿」で見取る

校内研究会における  
「改善の協議」設定

各分掌の取り組み

- ・ 互見授業
- ・ 児童会プロジェクト

自分の状況下を自分の言葉や動作で表現できるようにする。(養護教諭)

同じ怪我や事故を繰り返さないために、どうすればよかったかを考える。(生徒指導関係)

改善策  
録

・ 「分数にそろえる」「小数にそろえる」の算数用語をおさえる。  
・ 分数を小数にするときわり切れないことに気付いた児童がいた場合は認め、全体で確認する。  
・ 既習内容である、分数を小数で表したり小数を分数で表したりする方法を掲示しておく。  
【視点1：課題意識の持続②】  
本時のゴールは、問題を解くための導入で提示した様々な問題を解いていくことであると児童に示し、課題を設定する。

資・能：自分の考えをもち表現する場面

前時の既習内容を確認することで、どちらかにそろえれば解きやすいと気づき、書いたりつぶやいたりしている姿。

資・能：自分の考えをもち表現する場面

自分で解いたり、グループで交流したりする中で、問題を解くための方法を根拠として説明している姿。



児童の姿	遠野北小学校がめざす資質・能力
視点① 自分の考えをもち	視点② 粘り強く取り組む
成果	



《提言》  
育成を目指す資質・能力を全職員で  
確認して授業を参観すると「児童が主  
役の授業」に向かっていく。「児童が主  
共に学び合う校内研にしよう！」

## 視点3：調査結果の積極的活用

### 《取組内容》 個に応じた指導や授業にいかす

### 授業改善

答え方の傾向をつかむ。

自力解決の場で自分の考えをどのように表現させるかを考える。

【年 組】NRT『UA（アンダーアチーバー）』（認定1）分析 国語・算数

令和4年度NRT学力調査結果

【学力分析（教科総合）】

評価	1	2	3	4	5
率 組	%	%	%	%	%

評価	アンダーアチーバー	バランスアチーバー	オーバーアチーバー	児童数
率 組	%（人）	%（人）	%（人）	

【アンダーアチーバーの児童（教科総合）】

児童名

国語	算数
認定1の児童名 ① アンダーアチーバー ② アンダーアチーバー	持部 陽平 (+) ○○○○ (+) ○○○○ (+) ○○○○ (-)
UAの児童名	○○○○ ○○○○ ○○○○

学力不振の子（UAの児童）に、何をどう指導しますか？

UAの児童（教科）	UAに対しての指導・支援の方法（簡潔に）
○○ ○○（国語）	
○○ ○○（算数・算数）	

アンダーアチーバー児童の個別指導計画

学調問題を解く

無解答傾向の分析

【小5国語記述問題の無解答率】(23・R1)

番号	調査問題のねらい	正答率			無解答率
		R3	R3	R1	
19	得意構成を考えながら指定された文章を書く	52.4	60.3	19.2	13.0
20	自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く	48.6		20.2	-

【中2数学記述問題の無解答率】(23)

番号	調査問題のねらい	正答率		無解答率
		R3	R1	
7	与えられたグラフから、時間を調べた方法について説明することができる	41.1		26.4
15	問題文に添うための条件が必要な理由を説明することができる	34.3		37.0
19	不適切だと判断した理由を数学的な表現を用いて説明することができる	56.8		27.8

4-1 文字を用いた式・立式 (75) ・無回答2。具体的な場面を、文字を用いて式に表せるようにする。文字がその場面での何を表しているのかをおさえる。

4-2 文字を用いた式・値 (59) ♪

(61) ♪ 含んだ式が何を表しているのか、場面を提示して考えさせる。

5-2 文字を用いた式で表せるもの (61) ♪

6-1 およその面積・捉え方 (57) ・およその面積の見積もりを、実際に曲線からはみ出した部分

① 全国学力・学習状況調査の問題を解く

② 全国学力・学習状況調査の結果（児童質問紙結果から）

③ NRT・CRT分析から

### 《提言》

分析することによって児童の実態が見えてくる。どの子も「分かる」「できる」「やりたい」授業づくりへ。個に応じた授業改善をめざそう！